

## 会議録

会議の名称	男女平等参画推進委員会 平成30年度 第2回
開催日時	平成30年12月17日（月曜日） 午後6時00分から8時30分まで
開催場所	田無庁舎 5階 502会議室
出席者	出席：小澤委員長、石崎副委員長、安田副委員長、荻草委員、小松委員、佐々木委員、篠宮委員、鈴木委員、田村委員、中村委員、堀内委員、山田（尚）委員、山田（裕）委員 欠席：井上委員、小林委員 事務局：白井課長、福田係長、樋口主査
議題	（1）第1回男女平等参画推進委員会会議録（案）の承認について （2）西東京市第3次男女平等参画推進計画・西東京市配偶者暴力対策基本計画の実績評価（平成29年度）について （3）西東京市第4次男女平等参画推進計画について （4）重点課題、指標（案）について （5）その他
会議資料の名称	【配布資料】 （1）第1回男女平等参画推進委員会会議録（案） （2）西東京市第3次男女平等参画推進計画・西東京市配偶者暴力対策基本計画の実績評価（平成29年度）（修正案） （3）第4次男女平等参画推進計画（素案）（修正案） （3-1）各課調整による素案の主な修正箇所について （4）パブリックコメント実施までの経過 （5）パブリックコメントの実施結果について （6）市民説明会の実施結果について （7）指標（案）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録

## 会議内容

### **【開会（男女平等参画推進委員会）】**

- 委員長：これより第2回男女平等参画推進委員会を開催いたします。  
事務局より委員の半数以上が出席しており委員会が成立している旨の報告をした。  
事務局より配布資料を確認した。

### **（1）第1回男女平等参画推進委員会会議録（案）の承認について**

異議なく承認された。

### **（2）西東京市第3次男女平等参画推進計画・西東京市配偶者暴力対策基本計画の実績評価（平成29年度）について**

（資料2について説明）

- 委員長：29年度の評価としてはこれが最終になりますか。
- 事務局：そうです。
- 委員：評価がBからCに下がった事業についてはどうするのですか。
- 事務局：評価自体まで変えると計画全体に影響が出てしまうので、コメントだけ修正という形にさせていただきました。
- 委員：推進委員会の役目は評価だけではないので、C評価になった事業はA評価かB評価になるようにしてほしいと思います。
- 事務局：評価結果は各課に伝えます。各課評価には書かれていませんが、担当課目標に関連することで実施している事業などもあるので、事務局からは「こんなことはしていないか」、「こういうことはできないか」など、何等かのアプローチをして、評価できる取り組みを引き出したいとも思っています。

評価報告は承認された。

### **（3）西東京市第4次男女平等参画推進計画について**

（資料3、資料3-1について説明）

- 委員長：「Ⅲ-2（3）女性農業者への支援」の中で、「②女性農業者の支援」の本文中に「女性農業者等」とありますが、「等」の表現には何が含まれますか。
- 事務局：確認してご報告させていただきます。（※農業振興計画推進委員会等、各委員会などからも意見を聞いているため。）
- 委員長：「Ⅲ-2（4）女性の起業、コミュニティビジネス等への支援」の「①起業に関する支援と相談の実施」で、商工会が創業スクールなどを実施していますが、これには市役所は関わ

っていますか。

- 事務局：実施主体は商工会で、それに産業振興課が場所を提供したり、補助金を出して協力しているため、このような書き方をしています。起業創業支援対策の中で女性の働き方のサポートが入っています。
- 委員：「子育て・子育てワイワイプラン」の文言を強調するメリットは何でしょうか。
- 事務局：市はこれまでも「子育て・子育てワイワイプラン」に沿って事業を実施していますが、3次計画には記載がなかったので、4次計画では入れることにしました。
- 副委員長：「子育て・子育てワイワイプラン」の所管課はどこになりますか。進捗状況はどのように評価していますか。
- 事務局：子育て支援課が事務局を務め、保育課など関係各課が関わっています。進捗状況は子ども子育て審議会で検討しています。プランは学識経験者や市民委員が参加して策定しました。子ども子育て審議会は定期的に開催しています。
- 副委員長：プランの進捗状況をきちんと評価し、それに沿って実施されているなら信頼しておまかせすれば良いですが、本委員会でも機会を見て報告していただきたいと感じます。
- 事務局：進捗状況の評価は受けていると聞いています。人口も増えているので、見込みよりも足りなくなることがあるとサービスの量を改定しています。
- 委員：男女共同参画と子育て支援は密接に関係しています。働く女性の支援のベースになるものです。報告をしていただくと良いと思います。
- 委員：子ども子育て審議会では、保育支援のニーズ調査や事業者ヒアリングなどを実施しています。
- 副委員長：担当課の評価についてコメントを入れていただくと良いと思います。働く母親のニーズについては情報提供していただきたいです。
- 事務局：量については、「子育て・子育てワイワイプラン」の中に、「子ども・子育て支援事業計画」として盛り込まれています。
- 委員：資料は印刷して配布しなくても、メールにホームページのURLを貼っていただく程度で良いと思います。
- 委員：ワーク・ライフ・バランスの事業に新たに加わる見込みの課があるとの説明がありましたが、どの課ですか。
- 事務局：高齢者支援課です。高齢者の計画の中で、介護事業者の人手不足が心配されている中で、働く人のワーク・ライフ・バランスを大事にするため、事業者に働き掛けるということを入れたそうです。まだ調整中ですが、事業者への情報提供などに加えることになると思います。
- 委員：西東京市の福祉計画は、地域福祉計画が上位計画で、高齢者、障害者、子育てという4本柱の計画になっています。
- 委員長：「Ⅲ－4（2）地域での子育て支援の促進」で健康課が新たに入ったのはなぜですか。
- 事務局：5年前の計画策定時には、子ども発達支援センターは子ども家庭支援センターの所管でしたが、組織改正で健康課が所管することになったので、健康課を入れました。

- 委員長：各課との調整はどのように実施しているのですか。
- 事務局：メールでのやりとりが中心で、直接我々が行ったところもありますが、何度かやりとりしました。変更なしの課もありましたが、厳しく評価されているが、現状ではこれしかできないのでどうしたら良いかと相談を受けた課もありました。修正は素案の中に含まれています。質問等があれば事務局をお願いします。
- 委員長：このあとは、どのように進めますか。
- 事務局：計画の内容は変わりませんが、文言を調整している部分で変わる可能性があります。また、庁内の幹事会の意見、パブリックコメントの結果で変わる部分もあるかと思います。
- 委員長：幹事会ではどのような意見がありましたか。
- 事務局：子育てへの支援に関して、68 ページに「入所待機児童数等の推移」というグラフを載せましたが、待機児童の解消だけが子育て支援ではないという意見があり、入所児童数の増加、相談件数、子育てひろばの利用者数など、70 ページの（1）にあるような相談や保育サービスに関連する図表を載せることを検討しています。図表にあわせて説明文も変えることとなります。子育てサービスの提供が必要であるということがわかるデータ、例えば、子育て関係のサービスのニーズが高かったという調査結果の図を入れることも考えられます。
- 教育指導課からは、学校では性的マイノリティのお子さんへの対応は慎重に配慮しているという現状を理解していただきたいというご意見がありました。
- 副委員長：68 ページの待機児童数の図は削除し、図表の変更にあわせて文章も変えるということですか。
- 事務局：そうです。待機児童だけをクローズアップするのではなく、もっと広く子育て支援策をとらえてほしいということでした。相談件数や、入所者数が増えている現状、アンケートで子育て支援策のニーズが高いことがうかがえるデータなどを挙げ、こういうサービスが必要だという文脈になるのかなと思っています。
- 副委員長：待機児童数そのものは微増しているので、待機児童数の図表を削除しなくても、さまざまなグラフの中の一つとして入れたら良いと思います。
- 委員長：教育指導課は、計画の内容に反対されているのですか。
- 事務局：男女混合名簿については、採用が進んでいませんが、学校ではさまざまに検討した上で、そういう選択をしているので、評価のコメントをいただいてもその通りにはできないことがあるということでした。
- 委員：そういうところは評価がCでもしかたないと思います。
- 委員長：ハードルを下げて、できる範囲でやっていただくことも考えられます。
- 事務局：場面、場面で名簿を使い分けているとは聞いています。
- 副委員長：それはどういうことですか。場面によっては混合名簿を使い、健康診断は男女別の名簿にするということですか。今はパソコンで簡単にデータの並べ替えができるため、すぐに名簿を作れます。
- 事務局：中学校は混合名簿ではありませんが、小学校は19校中10校が混合名簿です。男女混

合名簿にするかどうかは、校長の判断で決まるようです。

○副委員長：校長先生たちに「なぜ混合名簿が必要か」ということをご理解いただくことが必要です。研修の場などで、世界中で混合名簿を使っているのに、日本では使っていないというデータや、混合名簿を使わないことのデメリットなど、校長先生に情報提供する機会を作ることも大切だと思います。

○委員：私達も「できないこと」を言うのではなく、「できること」を提案する必要があると思います。

○副委員長：学習会を開くなど働きかけをすれば、評価は改善すると思います。

○委員：性別名簿を使うのは、何かメリットがあるのでしょうか。

○事務局：八王子市や狛江市では全校で男女混合名簿になっています。男女混合名簿にするかしないか、両極端な状況です。中学校は男女混合名簿になっていないところの方が多いです。性的マイノリティへの対応という観点からも混合名簿にしてほしいという話が出ています。「東京都オリンピック憲章にうたわれる人権尊重の理念の実現を目指す条例」ができましたので、東京都の教育委員会からの強い働きかけを期待しています。校長会での説明など、働きかけは必要と考えています。

○委員：他の自治体で男女混合名簿を導入している事例などを話せば、評価の改善も難しくないと思います。

○事務局：学校では、性的マイノリティへの配慮を行っているという回答をいただいています。

○委員：評価をする中で、学校現場では新しい仕事は増やせない、という声もありました。

○委員：それは本当のことだと思いますが、上の認識が変わらないところに原因があるのではないのでしょうか。

○副委員長：理解してもらい、変えることでどういうメリットがあるのか、専門家を招いて講義していただくなどの努力をして、考えていただくということから取り組んではどうでしょうか。

(パブリックコメントおよび市民説明会の実施結果について、資料4、資料5、資料6 説明)

○委員長：パブリックコメントの回答はホームページで公表されるのですか。

○事務局：1月～2月には公表したいと考えています。

○委員：直接意見を持参した方は、どこに意見を提出されたのですか。

○事務局：パリテです。

○委員：ホームページからの意見提出はどのくらいでしたか。

○事務局：4人でした。前回よりは少なかったです。

○委員長：パブリックコメントの結果によって、計画の内容が変わるのでしょうか。

○事務局：項目を変えるのは難しいです。説明の内容など、可能なところは対応します。

○委員長：変更があれば、委員として意見を出す必要がありますか。

○事務局：変更があったらお願いしますが、基本は報告という形になります。

- 委員：加害者対応については、何をイメージしているのかわかりませんでした。
- 事務局：事務局でイメージしていたのは、加害者が窓口に来た時の対応です。
- 副委員長：更生プログラムのことではないでしょうか。東京ウィメンズプラザが実施しているプログラムについて情報提供をするということでも良いと思いますし、怒りをコントロールするためのアンガーマネジメント講座、DVだと気付いていない人に気付かせるための講座、DV加害者にしないための講座の実施も考えられます。
- 委員：計画書の38ページを詠むと、加害者への対応については、窓口に来た時の対応ではないでしょうか。
- 事務局：いかようにもとれる表現なので、あらためて検討します。
- 委員長：パブリックコメントと市民説明会のご意見について、委員にはどのような対応が求められていますか。
- 事務局：報告として受け止めていただければと思います。これらの意見については、事務局で回答をつくります。
- 委員長：計画の完成まで、委員会はあと2回くらいですね。
- 事務局：1月と2月の2回で、2月が最終で完成となります。

#### **(4) 重点課題、指標(案)について**

(資料7を説明)

- 委員長：「Ⅲ－3 男性の家事・育児・介護への参画促進」の指標で、現状値が1時間17分、目標値が1時間40分、国の目標値が44分となっています。
- 事務局：最新のデータが出ておりまして、少し上がってきています。市と国では数字の出し方が少し違うので単純に比較できませんが、国では、子育て期にある男性の家事・育児時間は1時間23分となっています。44分という数字については再確認します。(※44分は総務省の平成28年度社会生活基本調査の全回答者を対象とした数字(現状値)。「目標値」は誤り。1時間23分はそのうち6歳未満の子どもがいる世帯を対象とした数字。)
- 委員：目標は2時間にできないのですか。東京都より低く設定する必要があるのですか。
- 事務局：市のアンケート調査は、国の指標の出し方とは違う設計になっていたもので、単純には比較できなくなっています。次回のアンケート調査は、国の指標に合わせた質問に変えたいと思います。
- 副委員長：市のアンケート調査の結果には、子育て期の人も高齢期の人も入っているから低くなるのかもしれないですね。
- 事務局：国の調査は母数が多いので子育て期の人だけに絞って集計していますが、西東京市の調査は母数が少なすぎ、それができませんでした。子育て期以外の人も含んだ数字になります。
- 委員：目標は2時間など、もっと高くした方が良いです。
- 委員長：そういう目標をたてると、男性向けの家事講座など、高齢男性に家事を学んでもらう

という事業ができます。

○委員：防災会議は市の審議会ですか、避難所運営会議ですか。

○事務局：市の審議会です。

○委員：現状では女性の割合は1ケタ代で、なぜ審議会や委員会と同様、40%にしないのですか。

○事務局：前にもご説明したことがありますが、かなりの部分が組織のトップの方の当て職で、組織のトップの方は男性が多いということが影響しているという厳しい現状があります。国も目標にしており、引き続き指標にあげています。

○委員長：指標について、あらためて検討する時間はありますか。

○事務局：はい。

○副委員長：当て職の部分は、組織に対して女性を選んでもらう努力を求めています。また「市長が任命する者」という規定が活用できるのであれば、学識経験者の女性枠を設けることもできるのではないのでしょうか。

○委員：なるべく女性の割合を上げたいです。

○委員：避難所運営協議会には女性の参画が求められています。防災会議の中に避難所運営協議会の枠をつくと、女性の数が増えると思います。

#### (5) その他について

○事務局：次回は資料編についてご意見をいただきたいと考えています。1月21日（月）午後6時から、田無庁舎の502会議室で開催します。

○副委員長：イラストやコラムを入れることもご検討ください。

【閉会】